

「小学校三年生から後のことはよく覚えてるけど、その前のことはみんな忘れちゃった。」

少年はこう言うと、屈託なげに笑った。そして、こうつけ加えた。

「でも、Yちゃんもやっぱりあの幼稚園に入れた方がいいよ。だって、あそこ、僕の幼稚園だもの。」

少年は、きっぱりとそう言い切って、いま一度、爽やかに笑った。

子どもたちは、いつも前を向いて駆け出していく。短い足で、精一杯に……。

彼らは、「早く大きくなりたい」と一生懸命だから、後をふり返るいとまなど持ち合わせないのかも知れない。

巣立ちの春、今年も、子どもたちは、決然と小さな背中を見せて去って行くこうとしている。こんなとき、残される者たちは、「いつまでも健かであれ」と祈る

以外に何が出来ると言うのだろうか。

何しろ、この向こうみずの雛たちは、

私どもと過ごした何十倍もの時間を、こ

れから、飛び続けようとしているのだ。

しかも、未知の大海、未踏の大地の上を

……。せめて、私どものささやかな祈り

が、彼らを人知れずため、そのぬく

もりのゆえに、それぞれが凍えることな

く己れの旅を続けることが出来るように

……。

子らを送るとき、大方の保育者の胸を

よぎるのは、こんな想いではないだろう

か。それにしても、何と控え目で、何と

慎ましい願いであることか。

然し、子どもたちの中に、そのぬくも

りがよみがえるとき、彼らは、人知れ

ず、先の少年と同じつぶやきを口にする

だろう。

「何にも覚えてないけど、でも、あそこ

は、僕の幼稚園だ」と。(本田和子)

幼児の教育 第七十九巻 第三号

三月号 © 定価二五〇円

昭和五十五年二月二十五日 印刷
昭和五十五年三月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京九一九六四〇番

© 本誌御購読についての御注文は発売
所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。